

# 山梨県環境科学研究所による「小中学校理科教員研修会～体験で学ぶ火山～」について

## Training course of volcanoes for teachers held by Yamanashi Institute of Environmental Sciences

# 林 信太郎[1]; 荒牧 重雄[2]; 高田 亮[3]; 小山 真人[4]

# Shintaro Hayashi[1]; Shigeo Aramaki[2]; Akira Takada[3]; Masato Koyama[4]

[1] 秋大・教文・地学; [2] 日大・文理・地球システム; [3] 産総研; [4] 静岡大・教育・総合科学

[1] Dep. of Earth Sci., Akita Univ.; [2] Earth Sci., Nihon Univ.; [3] GSJ,AIST; [4] DIST, Education, Shizuoka Univ.

平成 16 年 8 月,「小中学校理科教員研修会～体験で学ぶ火山～」が山梨県環境科学研究所の主催によって開催された。研修会は,8月16日～17日,8月19日～20日の2回に渡って開催され,計約60名の教員の参加があった。

講義「火山としての富士山」では,「富士山のおいたち」「歴史時代の二大噴火」「噴火災害の予測とハザードマップ」「火山の恵みと私たちの暮らし」について講義された。特に火山の恵みに関する部分が関心を呼んでいた。

セミナー「火山ってなんだろう」では,火山噴火の基礎的な話に引き続いて,グループでの議論を s い,火山学者が一名ずつ加わって参加者からの質問に答えた。この方法で参加者からの活発な質問を引き出すことに成功した。

「火山に関する実験」を一日目午後に行った。「ゼラチンと油を使ったマグマの上昇と割れ目噴火実験」「立体地形図を使った溶岩流実験」「扇風機を使った降下火砕物実験」の3つを行ったが,わかりやすいという意見が多数を占めた。

野外見学については,説明者や案内者のていねいな説明と,前日の講義と実験であらかじめ噴火に関するイメージを参加者が持っていたためよく理解されたと評価できる。

以上のように今回の教員研修会は,参加者の理解度・満足度ともに高く,高いレベルで成功を収めたと評価できる。また,NHKの報道によると,研修参加者が研修の成果を生かして授業を行うなどの波及効果がでていいる。教員研修は,その対象者は数十名でも,教員の教える生徒の数は膨大である。火山防災教育を考える上で,きわめて効果があると考えられる。